

### 第3章 全国の患者・医療供給体制の現状

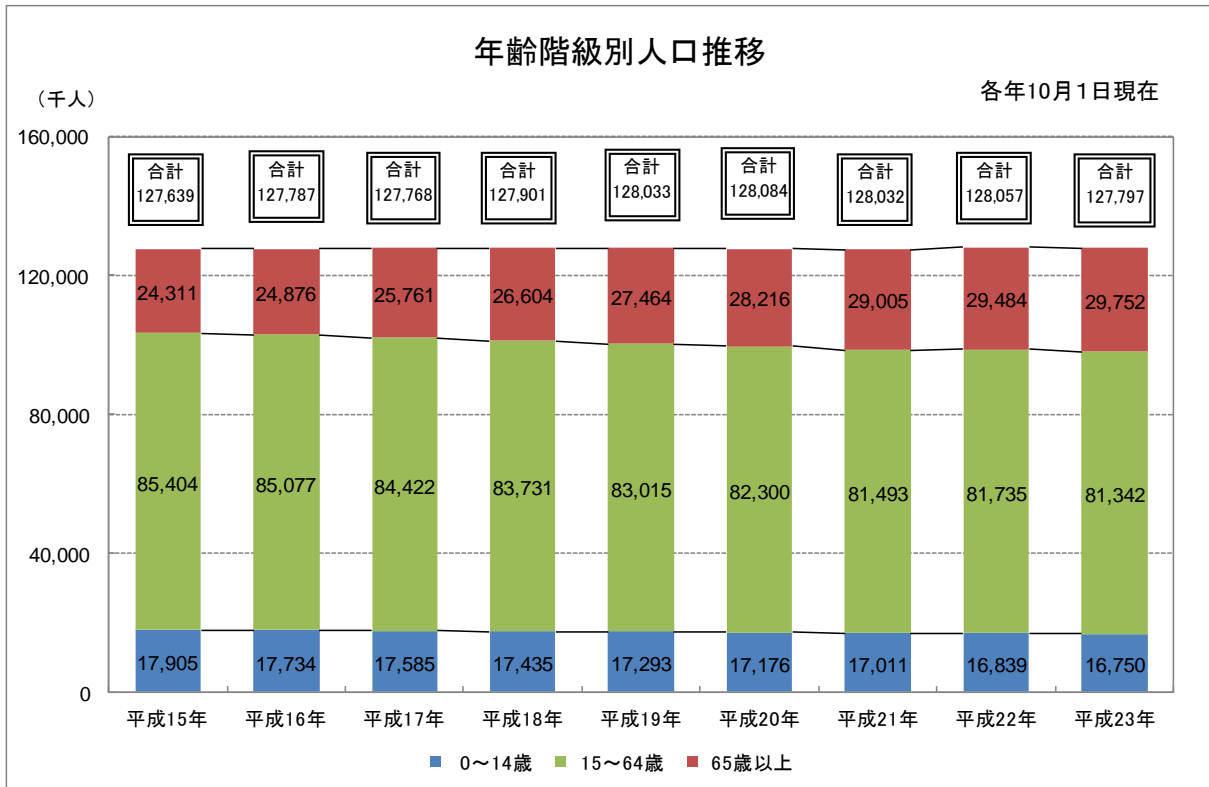
#### 1 患者（医療需要）に関するもの

##### (1) 人口動態

平成15年から平成23年間の日本の人口は0.08%の増加と、ほぼ横ばい傾向にあるが、年齢階層別の内訳には大きな変化が生じており、0～14歳、15～64歳の人口が一貫して減少している一方で、65歳以上の人口は一貫して増加している。（この間に22.4%の増加）

また、今後の推計をみてみると、人口は年々減少すると予測されており、30年後の平成53年には106,275千人（平成24年と比較して、 $(127,498-106,275)/106,275=20.0\%$ ）にまで減少すると予想されている。しかし、その場合も一貫して減少するのは0～14歳及び15～64歳の人口であり、65歳以上人口は増加を続けると見込まれている。

##### <年齢階級別人口推移>



##### ■ 増減数及び増減率

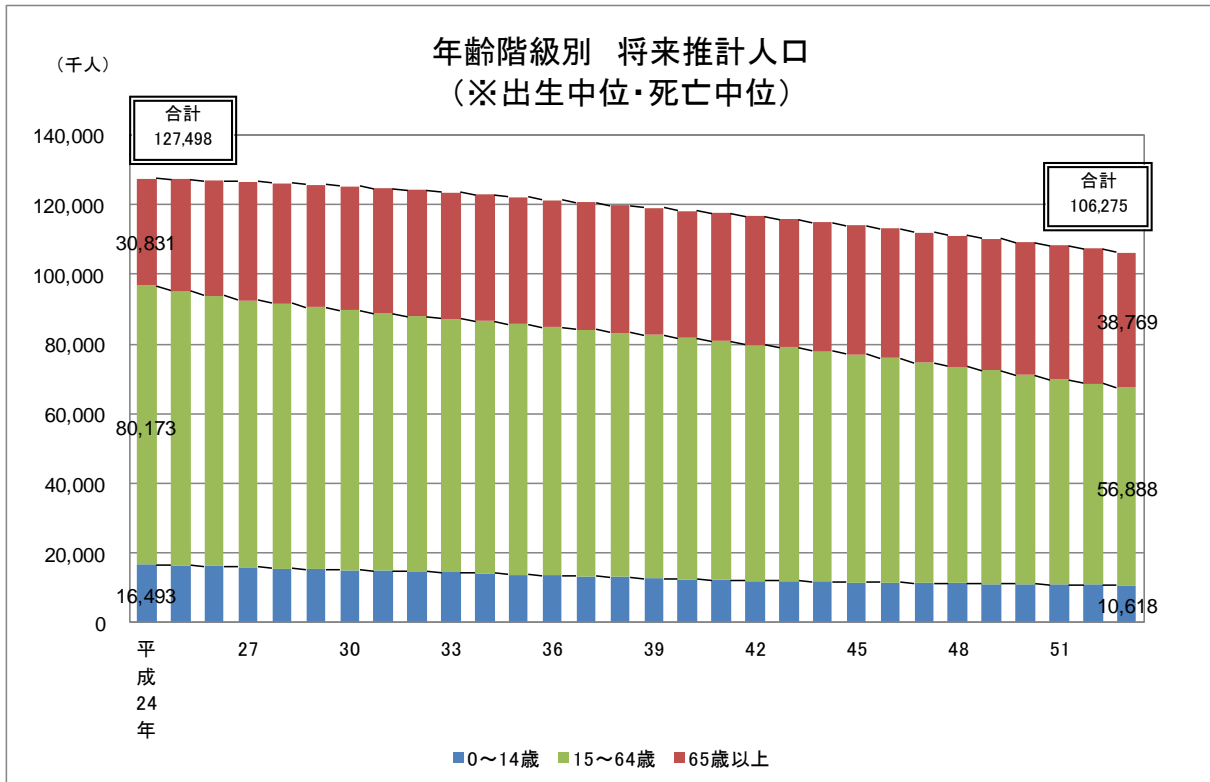
(単位：人)

	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	15年→23年
総数	93,000	-19,000	133,000	132,000	51,000	-52,000	25,000	-258,000	105,000
(増減率)	0.07%	-0.01%	0.10%	0.10%	0.04%	-0.04%	0.02%	-0.20%	0.08%
0～14歳	-171	-149	-150	-142	-117	-165	-172	-89	-1,155
(増減率)	-1.0%	-0.8%	-0.9%	-0.8%	-0.7%	-1.0%	-1.0%	-0.5%	-6.5%
15～64歳	-327	-655	-691	-716	-715	-807	242	-393	-4,062
(増減率)	-0.4%	-0.8%	-0.8%	-0.9%	-0.9%	-1.0%	0.3%	-0.5%	-4.8%
65歳以上	565	885	843	860	752	789	479	268	5,441
(増減率)	2.3%	3.6%	3.3%	3.2%	2.7%	2.8%	1.7%	0.9%	22.4%

(注) 増減率は前年と比較した人口の増減である。

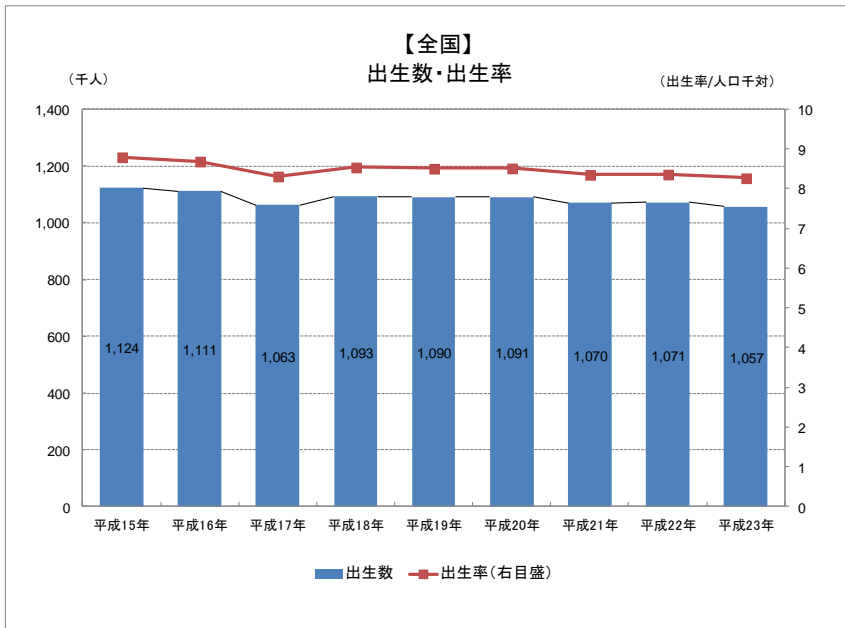
出典：「人口推計」（総務省）

<年齢階級別 将来推計人口>



出典：「日本の将来推計人口」（国立社会保障・人口問題研究所）

参考：出生数・出生率及び死亡数・死亡率の年次推移

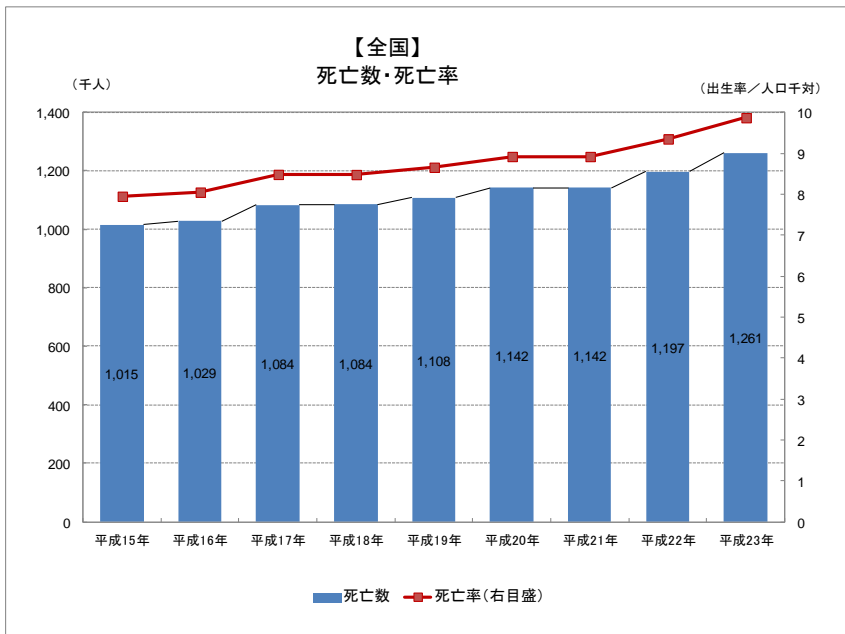


■ 出生数・率

	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
全国	1,123,610	1,110,721	1,062,530	1,092,674	1,089,818	1,091,156	1,070,035	1,071,304	1,057,000
	8.8	8.7	8.3	8.5	8.5	8.5	8.4	8.4	8.3

(注) 出生率は人口千対である。

出典：「人口動態調査」(厚生労働省)、「人口推計」(総務省)



■ 死亡数・率

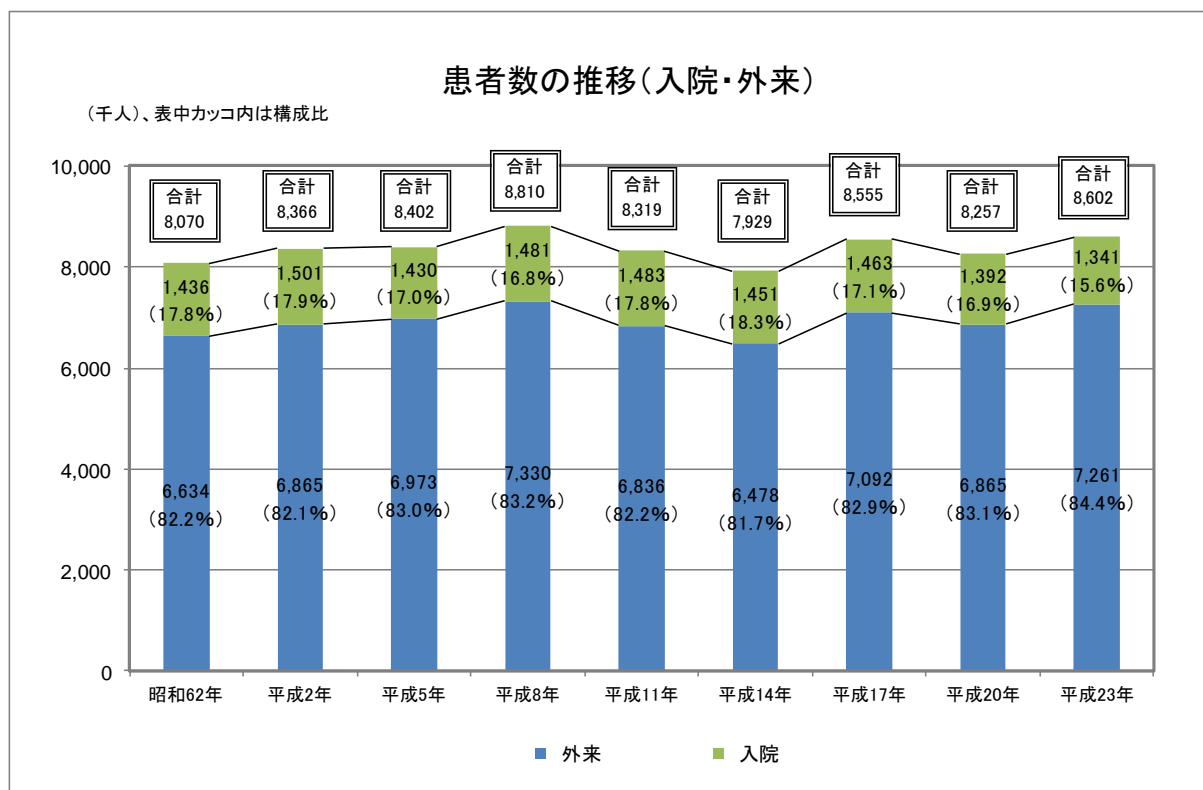
	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
全国	1,014,951	1,028,602	1,083,796	1,084,450	1,108,334	1,142,407	1,141,865	1,197,012	1,261,000
	7.9	8.0	8.5	8.5	8.7	8.9	8.9	9.3	9.9

(注) 死亡率は人口千対である。

出典：「人口動態調査」(厚生労働省)、「東京都の人口(推計)」(東京都)

## (2) 患者数の推移 (入院・外来)

昭和62年から平成20年まで患者数は概ね8,000～9,000千人の間で増減を繰り返して推移しており、一定の傾向は見られない。入院は全体の約16～18%で推移しており、入院と外来の比率には大きな変化は見られない。



(注) 平成14年以降は、分娩後の母親に伴い入院している正常な新生児は、推計患者数に含まれていない。また、平成23年の数値は、宮城県の石巻医療圏、気仙沼医療圏及び福島県を除いた数値である。

出典：「患者調査」(厚生労働省)

### (3) 傷病分類別患者数 (入院・外来)

傷病分類別に入院・外来患者数をみると、入院では患者の割合が高い順に「精神及び行動の障害」(21.1%)、「循環器系の疾患」(18.7%)、「新生物」(11.2%)となっているのに対し、外来では「消化器系の疾患」(17.9%)、「筋骨格系及び結合組織の疾患」(13.8%)、「循環器系の疾患」(13.1%)となっており、入院と外来ではその患者像に違いが見られることが分かる。

傷病分野	入院		外来		総数	
	患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合
	千人/日	%	千人/日	%	千人/日	%
総数	1,341.0	101.7%	7,260.5	102.3%	8,601.5	102.2%
I 感染症及び寄生虫症	22.4	1.7%	169.9	2.3%	192.3	2.2%
II 新生物	150.6	11.2%	219.9	3.0%	370.5	4.3%
悪性新生物(再掲)	134.8	10.1%	163.5	2.3%	298.3	3.5%
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	6.5	0.5%	22.3	0.3%	28.9	0.3%
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	36.0	2.7%	414.4	5.7%	450.5	5.2%
V 精神及び行動の障害	282.3	21.1%	221.2	3.0%	503.5	5.9%
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害(再掲)	174.1	13.0%	60.6	0.8%	234.8	2.7%
気分[感情]障害(躁うつ病を含む)(再掲)	29.1	2.2%	74.5	1.0%	103.6	1.2%
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害(再掲)	5.6	0.4%	47.4	0.7%	52.9	0.6%
VI 神経系の疾患	114.9	8.6%	149.8	2.1%	264.7	3.1%
VII 眼及び付属器の疾患	11.9	0.9%	294.1	4.1%	306.0	3.6%
VIII 耳及び乳様突起の疾患	2.7	0.2%	114.7	1.6%	117.5	1.4%
IX 循環器系の疾患	251.3	18.7%	948.3	13.1%	1,199.6	13.9%
高血圧性疾患(再掲)	7.1	0.5%	663.5	9.1%	670.6	7.8%
心疾患(高血圧性のものを除く)(再掲)	58.1	4.3%	134.1	1.8%	192.3	2.2%
脳血管疾患(再掲)	172.2	12.8%	111.6	1.5%	283.8	3.3%
X 呼吸器系の疾患	89.7	6.7%	708.0	9.8%	797.7	9.3%
X I 消化器系の疾患	64.3	4.8%	1,300.3	17.9%	1,364.6	15.9%
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	15.8	1.2%	254.0	3.5%	269.8	3.1%
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	63.1	4.7%	1,001.8	13.8%	1,064.9	12.4%
X IV 腎尿路生殖器系の疾患	47.6	3.5%	266.0	3.7%	313.6	3.6%
X V 妊娠、分娩及び産じょく	17.6	1.3%	13.9	0.2%	31.5	0.4%
X VI 周産期に発生した病態	6.6	0.5%	2.6	0.0%	9.2	0.1%
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	5.8	0.4%	11.4	0.2%	17.3	0.2%
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	18.6	1.4%	83.7	1.2%	102.3	1.2%
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	124.8	9.3%	317.6	4.4%	442.4	5.1%
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	8.3	0.6%	746.5	10.3%	754.8	8.8%

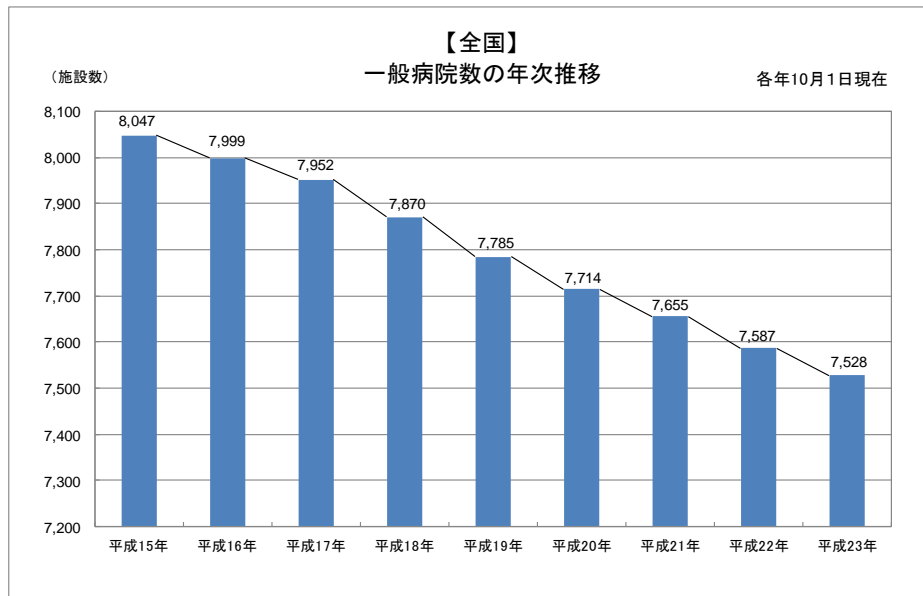
(注)割合は四捨五入をしているため、その合計が100にならない。

出典:「平成23年患者調査」(厚生労働省)

## 2 医療供給体制に関するもの

### (1) 医療施設数

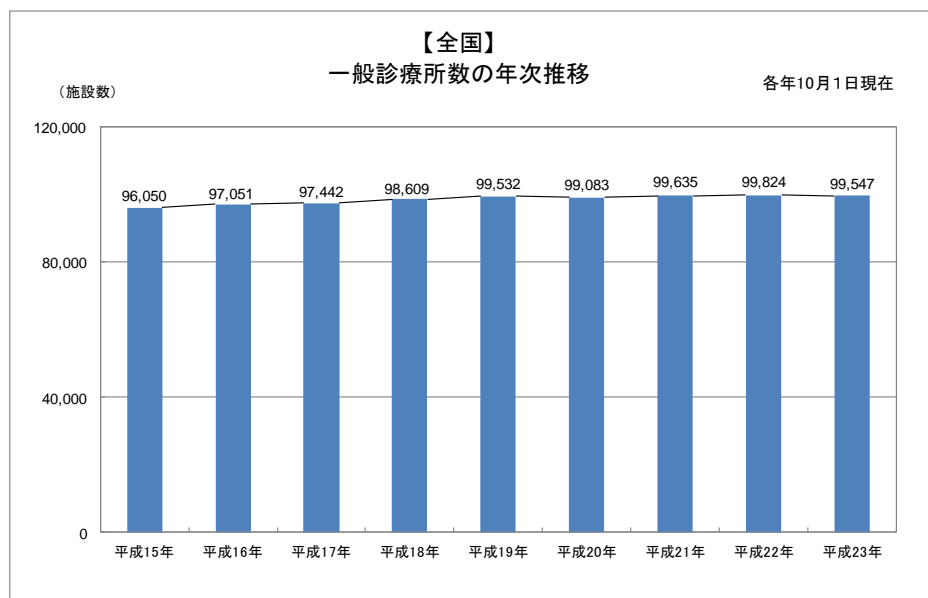
平成15年から平成23年にかけて一般病院は一貫して減少を続けている。平成15年と平成23年を比較すると、増減率は-6.9%となっている。一般診療所はやや増加傾向にあり、平成15年から平成23年の間の増減率は3.5%となっている。



#### ■ 増減数及び増減率

	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	15年→23年
国	-69	-48	-47	-82	-85	-71	-59	-68	-59	-519
(増減率)	-0.9%	-0.6%	-0.6%	-1.0%	-1.1%	-0.9%	-0.8%	-0.9%	-0.8%	-6.9%

出典：「医療施設調査」（厚生労働省）



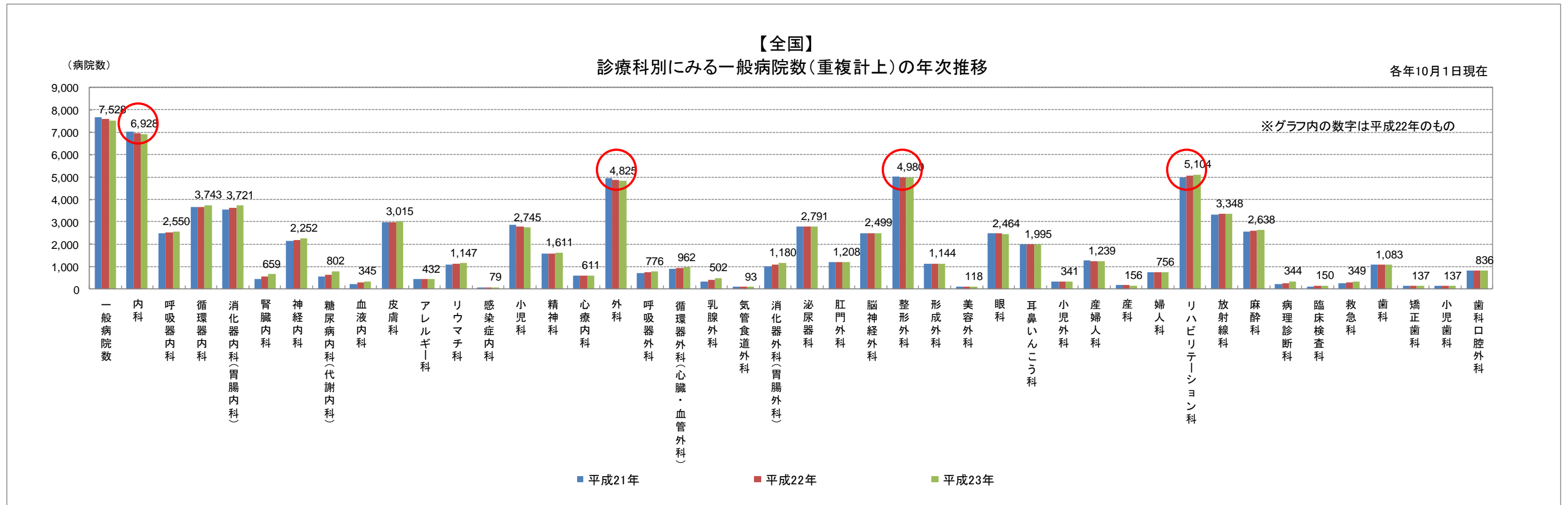
#### ■ 増減数及び増減率

	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	15年→23年
全国	1,001	391	1,167	923	-449	552	189	-277	3,497
(増減率)	1.0%	0.4%	1.2%	0.9%	-0.5%	0.6%	0.2%	-0.3%	3.5%

出典：「医療施設調査」（厚生労働省）

(2) 診療科別にみる一般病院数(重複計上)の年次推移

一般病院の施設数を診療科別にみると、内科が最も多く一般病院数の約92%、リハビリテーションの同68%、整形外科の同66%と外科の同64%がこれに続く。



■ 平成23年の内訳

10月1日現在

診療科	全国	内科	呼吸器内科	循環器内科	消化器内科(胃腸内科)	腎臓内科	神経内科	糖尿病内科(代謝内科)	血液内科	皮膚科	アレルギー科	リウマチ科	感染症内科	小児科	精神科	心療内科	外科	呼吸器外科	循環器外科(心臓・血管外科)	乳腺外科	気管食道外科	消化器外科(胃腸外科)	泌尿器科	肛門外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	美容外科	眼科	耳鼻いんこう科	小児外科	産婦人科	産科	婦人科	リハビリテーション科	放射線科	麻酔科	病理診断科	臨床検査科	救急科	歯科	矯正歯科	小児歯科	歯科口腔外科
全国	7,528	6,928	2,550	3,743	3,721	659	2,252	802	345	3,015	432	1,147	79	2,745	1,611	611	4,825	776	962	502	93	1,180	2,791	1,208	2,499	4,980	1,144	118	2,464	1,995	341	1,239	156	756	5,104	3,348	2,638	344	150	349	1,083	137	137	836
病院数に対する割合(%)	100	92	34	50	49	9	30	11	5	40	6	15	1	36	21	8	64	10	13	7	1	16	37	16	33	66	15	2	33	27	5	16	2	10	68	44	35	5	5	14	2	2	11	

出典：「医療施設調査」(厚生労働省)

■ 平成21年及び平成23年の診療科目別病院数（重複計上）

各年10月1日現在

診療科名	平成21年		平成23年		平成21年→23年	
	病院数	一般病院数に対する割合(%)	病院数	一般病院数に対する割合(%)	21年→23年増減数	平成21年比増減率
一般病院数	7,655	100	7,528	100	-127	-2%
内科	7,034	92	6,928	92	-106	-2%
呼吸器内科	2,480	32	2,550	34	70	3%
循環器内科	3,647	48	3,743	50	96	3%
消化器内科（胃腸内科）	3,565	47	3,721	49	156	4%
腎臓内科	440	6	659	9	219	50%
神経内科	2,134	28	2,252	30	118	6%
糖尿病内科（代謝内科）	558	7	802	11	244	44%
血液内科	235	3	345	5	110	0%
皮膚科	2,972	39	3,015	40	43	1%
アレルギー科	444	6	432	6	-12	-3%
リウマチ科	1,085	14	1,147	15	62	6%
感染症内科	62	1	79	1	17	0%
小児科	2,853	37	2,745	37	-108	-4%
精神科	1,563	20	1,611	21	48	3%
心療内科	598	8	611	8	13	2%
外科	4,931	64	4,825	64	-106	-2%
呼吸器外科	705	9	776	10	71	10%
循環器外科（心臓・血管外科）	912	12	962	13	50	5%
乳腺外科	321	4	502	7	181	0%
気管食道外科	89	1	93	1	4	0%
消化器外科（胃腸外科）	1,008	13	1,180	16	172	17%
泌尿器科	2,786	36	2,791	37	5	0%
肛門外科	1,206	16	1,208	16	2	0%
脳神経外科	2,482	32	2,499	33	17	1%
整形外科	5,041	66	4,980	66	-61	-1%
形成外科	1,121	15	1,144	15	23	2%
美容外科	114	2	118	2	4	0%
眼科	2,487	33	2,464	33	-23	-1%
耳鼻いんこう科	2,007	26	1,995	27	-12	-1%
小児外科	332	4	341	5	9	0%
産婦人科	1,294	17	1,239	17	-55	-4%
産科	180	2	156	2	-24	-13%
婦人科	748	10	756	10	8	1%
リハビリテーション科	4,998	65	5,104	68	106	2%
放射線科	3,338	44	3,348	45	10	0%
麻酔科	2,546	33	2,638	35	92	4%
病理診断科	226	3	344	5	118	52%
臨床検査科	116	2	150	2	34	29%
救急科	247	3	349	5	102	41%
歯科	1,094	14	1,083	14	-11	-1%
矯正歯科	133	2	137	2	4	0%
小児歯科	129	2	137	2	8	6%
歯科口腔外科	816	11	836	11	20	2%

■ 増加数（実数）の多い診療科

順位	診療科名	増加数（実数）
1	糖尿病内科（代謝内科）	244
2	腎臓内科	219
3	乳腺外科	181
4	消化器外科（胃腸外科）	172
5	消化器内科（胃腸内科）	156
6	神経内科	118
6	病理診断科	118
8	血液内科	110
9	リハビリテーション科	106
10	救急科	102
11	循環器内科	96
12	麻酔科	92
13	呼吸器外科	71
14	呼吸器内科	70
15	リウマチ科	62
16	循環器外科（心臓・血管外科）	50
17	精神科	48
18	皮膚科	43
19	臨床検査科	34
20	形成外科	23
21	歯科口腔外科	20
22	感染症内科	17
22	脳神経外科	17
24	心療内科	13
25	放射線科	10
26	小児外科	9
27	婦人科	8
27	小児歯科	8
29	泌尿器科	5
30	気管食道外科	4
30	美容外科	4
30	矯正歯科	4
33	肛門外科	2
34	歯科	-11
35	アレルギー科	-12
35	耳鼻いんこう科	-12
37	眼科	-23
38	産科	-24
39	産婦人科	-55
40	整形外科	-61
41	内科	-106
41	外科	-106
43	小児科	-108

■ 増加率（%）の高い診療科

順位	診療科名	増加率（%）
1	病理診断科	52%
2	腎臓内科	50%
3	糖尿病内科（代謝内科）	44%
4	救急科	41%
5	臨床検査科	29%
6	消化器外科（胃腸外科）	17%
7	呼吸器外科	10%
8	小児歯科	6%
9	リウマチ科	6%
10	神経内科	6%
11	循環器外科（心臓・血管外科）	5%
12	消化器内科（胃腸内科）	4%
13	麻酔科	4%
14	精神科	3%
15	呼吸器内科	3%
16	循環器内科	3%
17	歯科口腔外科	2%
18	心療内科	2%
19	リハビリテーション科	2%
20	形成外科	2%
21	皮膚科	1%
22	婦人科	1%
23	脳神経外科	1%
24	放射線科	0%
25	泌尿器科	0%
26	肛門外科	0%
27	血液内科	0%
27	感染症内科	0%
27	乳腺外科	0%
27	気管食道外科	0%
27	美容外科	0%
27	小児外科	0%
27	矯正歯科	0%
34	耳鼻いんこう科	-1%
35	眼科	-1%
36	歯科	-1%
37	整形外科	-1%
38	内科	-2%
39	外科	-2%
40	アレルギー科	-3%
41	小児科	-4%
42	産婦人科	-4%
43	産科	-13%



### (3) 基準病床・既存病床

感染症病床を除く全ての病床種別も既存病床数が基準病床数を上回っている。なかでも基準病床数に対する既存病床数の割合が最も高いのは結核病床の 158% である。

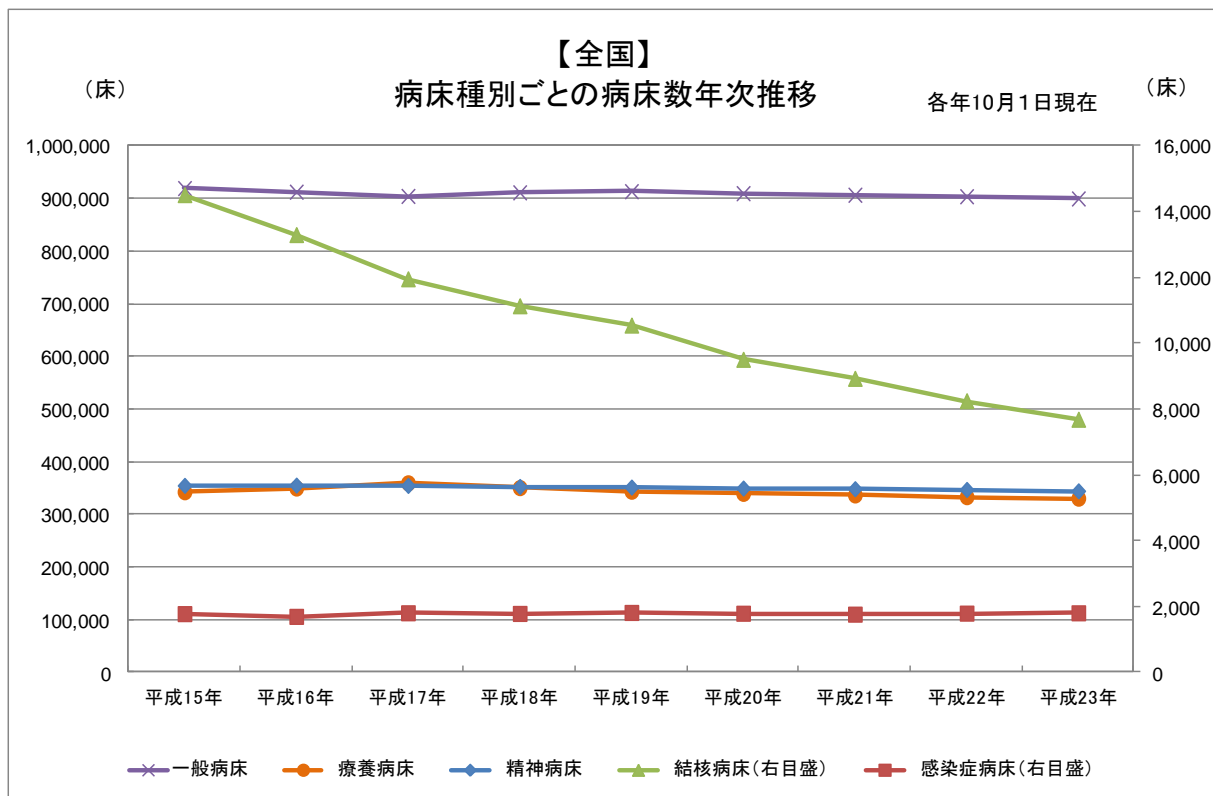
(平成23年)

区分	基準病床数 (A)	既存病床数 (B)	差分 (C = B - A)	基準病床数に対する 既存病床数の割合
一般病床及び 療養病床	1,108,715	1,256,427	147,712	113%
精神病床	307,450	349,553	42,103	114%
結核病床	6,256	9,867	3,611	158%
感染症病床	1,898	1,725	-173	91%

出典：「平成23年版 厚生労働白書」（厚生労働省）

#### (4) 病床種別ごとの病床数年次推移

結核病床は平成15年～平成23年の間に約半数に減少、それ以外の病床種別は概ね横ばいとなっている。



#### ■ 増減数及び増減率

	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	15年→23年
一般病床	-6,877	-7,994	6,815	2,220	-3,797	-3,036	-2,780	-4,236	-19,685
(増減率)	-0.8%	-0.9%	0.7%	0.2%	-0.4%	-0.3%	-0.3%	-0.5%	-2.2%
療養病床	7,107	9,780	-9,000	-6,830	-4,042	-3,085	-3,287	-2,819	-12,176
(増減率)	2.0%	2.7%	-2.6%	-2.0%	-1.2%	-0.9%	-1.0%	-0.9%	-3.7%
精神病床	479	-631	-1,859	-1,249	-1,867	-1,200	-1,406	-2,668	-10,401
(増減率)	0.1%	-0.2%	-0.5%	-0.4%	-0.5%	-0.3%	-0.4%	-0.8%	-3.0%
結核病床	-1,214	-1,344	-820	-587	-1,040	-578	-680	-563	-6,826
(増減率)	-9.1%	-11.2%	-7.4%	-5.6%	-10.9%	-6.5%	-8.2%	-7.3%	-88.9%
感染症病床	-83	109	-20	30	-24	-28	31	10	25
(増減率)	-4.9%	6.1%	-1.1%	1.7%	-1.3%	-1.6%	1.7%	0.6%	1.4%

出典：「医療施設調査」（厚生労働省）

## (5) 医療従事者数

平成19年と平成23年の対10万人あたり人数を比較すると、下記の31業種中22業種が増加している。医療機関における主要な業種である医師、看護師、薬剤師などは、いずれも増加している。

対人口10万人

(単位：人)

職種	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	19年→23年
医師	143.6	146.7	149.3	152.6	156.1	↗
歯科医師	7.6	7.8	7.8	8.0	7.9	↗
薬剤師	32.0	32.6	33.7	33.8	33.5	↗
保健師	2.7	3.1	3.5	3.7	3.7	↗
助産師	13.7	14.2	14.7	15.0	15.7	↗
看護師	483.0	497.3	515.6	533.0	551.4	↗
准看護師	137.8	133.3	130.1	125.8	120.3	↘
看護業務補助者	149.4	148.2	151.2	153.1	154.1	↗
理学療法士（PT）	27.2	30.2	33.4	37.1	40.5	↗
作業療法士（OT）	17.0	19.1	21.6	24.0	25.8	↗
視能訓練士	2.2	2.3	2.4	2.6	2.7	↗
言語聴覚士	5.3	6.1	6.8	7.5	8.3	↗
義肢装具士	0.04	0.05	0.05	0.05	0.05	↗
歯科衛生士	3.3	3.3	3.4	3.5	3.6	↗
歯科技工士	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	↘
診療放射線技師	28.8	29.2	29.7	30.4	31.0	↗
診療エックス線技師	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	↘
臨床検査技師	36.4	37.0	37.5	38.3	38.9	↗
衛生検査技師	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	↘
臨床工学技士	8.6	9.3	10.0	10.8	11.4	↗
あん摩マッサージ指圧師	2.3	2.1	2.0	1.8	1.6	↘
柔道整復師	0.5	0.5	0.5	0.5	0.4	↘
管理栄養士	13.2	13.7	13.9	14.3	14.7	↗
栄養士	4.7	4.6	4.5	4.4	4.3	↘
精神保健福祉士	4.9	5.3	5.6	5.8	6.0	↗
社会福祉士	2.8	3.6	4.0	4.7	5.3	↗
介護福祉士	19.6	21.5	23.9	25.9	27.3	↗
その他の技術員	12.6	12.4	12.7	12.8	13.1	↗
医療社会事業従事者	7.2	7.2	7.2	7.1	6.9	↘
事務職員	123.3	127.1	131.3	137.7	145.4	↗
その他の職員	65.2	64.2	64.3	63.9	63.2	↘

出典：「病院報告」（厚生労働省）